

2018年12月17日

あおぞら投信株式会社

「上がるなら 買いたくなるのが 人の常 誰が買い手で マネー動くや」

1998年のロシア危機とLTCMショック*から2008年の世界的な金融危機へと10年ごとに起こっている世界的な株式相場の調整が、今年2018年も静かに起こっていると見る事が出来ます。世界第二位の経済大国である中国の上海総合株式指数は、年初から20%超の低下を記録しています。また、9年以上に及ぶ戦後第二位の好景気を続けている米国でも、NYダウは昨年末から1%の低下となっています。特に相場を牽引してきた時価総額の大きい銘柄は、Appleが10月初の高値から12月7日時点で28%の下落と調整幅を拡大しています。

株式相場においては、上昇の初期段階では「株価が割高である」といった評価がなされます。それが相場上昇の時間の経過とともに、上昇した株価を正当化するためのロジックが生じてきます。そうすると、さらなる株価の上昇を想定するロジックも生まれやすくなります。株価は将来価値を織り込む特性から、このようにロジックの振れ幅も出現するものなのです。そして反対に、今年のような株価が調整する初期段階では低下した株価を「割安だ」と評価する動きが出ます。それが更なる株価の低下を見ると、ロジックそのものへの疑問が出てくるのです。このように株式相場における評価は、その時々でぶれるものなのです。その中で「株価形成にもっとも大きな影響を与えるのは、需給であること」を忘れてはならないと思うのです。人間は上昇している事実に対して、判断を働かせるという傾向があります。『買いが買いを呼ぶ』という現象です。そして、反対に下落するともっと下落するのではないかという恐怖心が生まれます。これが『売りが売りを呼ぶ』ことになります。そして、現在の市場参加者には、AIを含めてシステムも参加していますから、もっと機械的に相場に対して力が作用していることもあるのです。市場における価格形成について、参加者の変化を感じる力も必要である、と考えさせられる今年の株式相場の調整です。

*LTCMショック: 1998年の秋頃に発生した、アメリカ合衆国の大手ヘッジファンドLTCMの実質破綻による金融危機をいいます。
また、LTCMとは、「Long Term Capital Management (ロングターム・キャピタル・マネジメント)」の略。

柳谷俊郎

上海総合指数の推移
(2008年1月末～2018年12月7日時点)



NYダウ (ダウ工業株30種平均) とアップルの株価の推移
(2008年1月末～2018年12月7日時点)



出所: 上海証券取引所およびS&Pダウ・ジョーンズ・インデックスのデータに基づきあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号: あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第2771号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス: <http://www.aozora-im.co.jp/>